

<学校名> 蕨市立第二中学校
 <所在地> 蕨市錦町3-9-38
 <電話> 048-443-2670
 <本事例の特徴>

本校では、国語科における学力向上プランに「資料の読み取りや思考力の積み重ねを可視化するために ICT 機器を活用する」ことを挙げている。今回は、教員自身が JICA 海外協力隊経験者であることを生かし、ゲストティーチャーを迎えての ICT を活用した授業の実践事例を紹介する。

<具体的な取組や成果>

○国際理解教育の視点を取り入れた国語科授業

本単元「作られた物語を超えて」(光村図書・3年)は、霊長類学者である筆者がルワンダに生息するゴリラの行動をもとに主張をしていく論説文である。単元の前半では授業支援システム「スクールタクト」を活用して文章の構成をつかみ、筆者の主張に対しての理解を深めた。その後、JICA 海外協力隊としてルワンダで活動していた元隊員をゲストティーチャーに招き、筆者が本文中で述べているゴリラの生態やルワンダの歴史についての授業を行った。



○ICT の活用による成果

ゲストティーチャーと共に行った授業では映像資料を活用しルワンダの歴史に関する資料やゴリラの実際の鳴き声を生徒に紹介した。各生徒がタブレットで資料を確認しながら授業を受けることで、教室にいながら遠いアフリカの地やジャングルの様子を、より実感をもって学ぶ機会となった。また、よりよい社会を作るために自分の考えを「スクールタクト」にまとめ、単元の最後にはクラスメイトと共有することができた。



○生徒の感想

- 教科書を読んだだけではイメージできなかったゴリラのドラミングの音を実際に聞いて、自分の間違っているイメージをなくすことができた。
- アフリカはとても遠い場所というイメージがあったが、実際にルワンダへ行って2人の先生と映像や写真を見ることで、世界の情勢や歴史を身近に考えようと思えた。

